

漢籍の

旅路

出版・流通・收藏の諸相

モンゴル時代の書物の道

明末の宣教師が出版した漢籍とキリシタン版

漢籍購入の旅——朝鮮後期知識人たちの中国旅行記をひもとく

京都大学人文科学研究所教授 矢木 毅

京都大学大学院文学研究科教授 中砂明徳

京都大学人文科学研究所助教 宮紀子



古いけれども古びない、
歴史があるから新しい。

2017年3月18日[土] 10:30 - 16:00

聴講無料・要申込み

会場 / 学術総合センター内 一橋大学一橋講堂中会議場
(千代田区一ツ橋 2-1-2)

聴講ご希望の方は、「漢籍セミナー申込み」と明記し、氏名・所属・連絡先（住所・電話番号・E-mailアドレス）をご記入の上、右記宛先までハガキもしくはE-mailまたはFAXでお申込みください。
【3月10日(金) 17:00 必着】。折り返しハガキにて参加の可否についてのご連絡をさしあげます。

京都大学人文科学研究所
附属東アジア人情報学研究中心

〒606-8265 京都市左京区北白川東小倉町 47

電話 075-753-6997 FAX 075-753-6999

E-mail kanseki-tokyo@zinbun.kyoto-u.ac.jp

○詳しくは裏面をご覧ください。

漢籍の遥か旅路

出版・流通・収蔵の諸相

● 今回の概要

デジタル・デバイス、電子書籍の急速な普及により、今や世界のあらゆる書籍が居ながらにして閲覧できる時代が近づこうとしています。しかし今のところ、電子書籍を通してはさすがに紙の手触りまでは伝えることができないようです。

ほとんど劣化することなく、大量に複製することのできるデジタル書籍とはちがって、旧時代の漢籍は版ごとに異なり、刷りごとに異なっており、ほとんどが「一点もの」といっても過言ではありません。さらに、流通・収蔵の過程で題記や蔵書印等の個性が加わり、「一点もの」としての性格はますます強まります。天下の孤本とされるような秘蔵はもとより、各図書館に収蔵されているごくありふれた漢籍についても、一点一点にそれぞれ秘められた来歴があるのではないのでしょうか？

この講演会では「モノ」としての漢籍がたどったさまざまな旅路について、三人の講師がそれぞれの切り口から分かりやすく解き明かします。



●参加定員／200名(申込み順)

*定員を超えた場合はお知らせします。

●申込み期限／3月10日(金)17:00 必着

*申込みの詳細は表面をご覧ください。

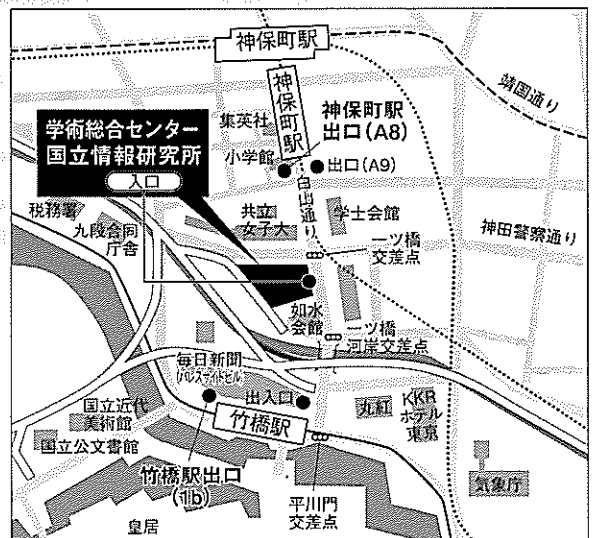
●プログラム

司会 古勝隆一 (人文科学研究所准教授)

10:30~10:45	◎開会挨拶	東アジア人文情報学研究センター長 稲葉稔
10:45~12:00	◎講演	モンゴル時代の書物の道 京都大学人文科学研究所 助教 宮紀子
12:00~13:10	◎休憩	
13:10~14:25	◎講演	明末の宣教師が出版した漢籍とキリシタン版 京都大学大学院文学研究科 教授 中砂明徳
14:25~14:40	◎休憩	
14:40~15:55	◎講演	漢籍購入の旅 ——朝鮮後期知識人たちの中国旅行記をひもとく 京都大学人文科学研究所 教授 矢木毅
15:55~16:00	◎開会挨拶	

*講演時には質疑応答時間を含みます

●会場／学術総合センター内(千代田区一ツ橋2-1-2) 一橋大学一橋講堂中会議場



◎会場への交通機関

- 都営新宿線
- 都営三田線
- 東京メトロ半蔵門線
- 東京メトロ東西線
- 高速道路

・ 東京メトロ半蔵門線 都営地下鉄三田線・新宿線
「神保町駅」A8 出口より徒歩5分
・ 東京メトロ東西線「竹橋駅」1b 出口より徒歩5分